

6 3 6 1 - 1 0 9 8  
平成19年 3月26日

各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

## 病害虫防除情報第9号

イチゴの病害虫管理についてお知らせします。  
各地域の状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

- 1 作物名 イチゴ
- 2 病害虫名 ハダニ類、うどんこ病、炭疽病
- 3 発生状況

- 1) ハダニ類については、栽培当初から多い傾向にあり、注意報2回、防除情報1回を発表して注意を呼び掛けたところであるが、依然として多い状況にある。3月中旬現在の発生状況は、発生面積率が91.7%（平年48.8%）、寄生株率が29.7%（平年15.5%）で、どちらも平年より多となっている（図1）
- 2) うどんこ病についても、年末から比較的多い状況が続いている。3月中旬現在の発生状況は、発生面積率が58.4%（平年19.8%）、発病葉率が2.8%（平年0.8%）で、どちらも平年より多となっている。（図2）
- 3) 炭疽病については、暖冬の影響もあり年末以降もさらに発症が続いており、本ぼの菌密度増加が懸念される。3月中旬現在の発生状況は、発生面積率が25.0%（平年0.0%）、発病株率が6.6%（平年0.0%）で、どちらも平年より多となっている。（図3）

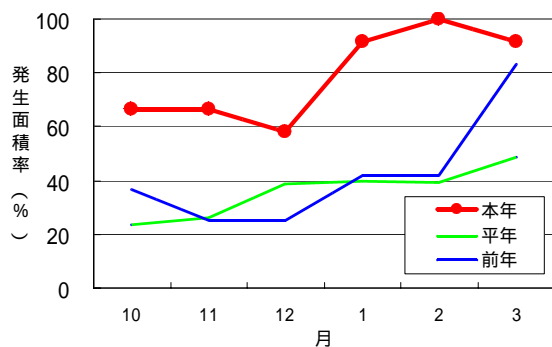


図1 ハダニ類の発生面積率の推移

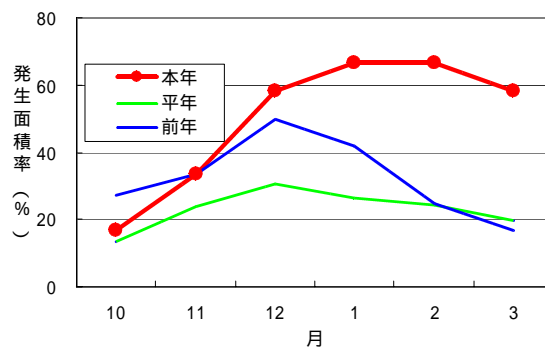


図2 うどんこ病の発生面積率の推移

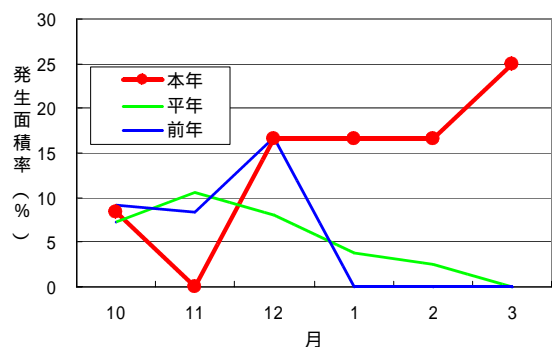


図3 炭疽病の発生面積率の推移

#### 4 防除上の注意

親株床への持ち込み阻止、持ち込んだ場合の初期防除の徹底という観点から、下記の対策を行う。

##### 1) ハダニ類、うどんこ病

今作については、両病害虫の増殖に好適な条件が続いたことが多発の要因となっている。親株床への持ち込みがあった場合も、多発の恐れがあるので防除を徹底する。

ハダニ類、うどんこ病とも多発生後の防除は困難となるので、早期発見、早期防除に努める。どちらも葉裏に寄生することが多いので、葉裏に十分薬液がかかるように丁寧に薬剤散布する。摘葉後に行うと薬剤の到達度が上がり効果的である。

多発ほ場においては、1回防除では効果が不十分なことがあるので、2回以上の連続防除を実施する。

ハダニ類はイチゴ以外の植物にも寄生するので、ほ場内外の除草を行う。

うどんこ病の罹病葉やハダニ類の寄生葉は伝染源となるので、ほ場内に放置せずビニル袋などに密封して処分する。

##### 2) 炭疽病

前作の発病ほ場から採苗したところでは、苗床で発病が見られなくても、ほ場で急速に蔓延するので十分な警戒が必要である。

罹病株と罹病残渣を含む土壌が伝染源になる。高温多湿条件で病斑上に分生子を形成し、雨水等によってそれが飛散して二次伝染する。特に台風等による浸冠水は激発の恐れがある。

無病株を親株とし、雨よけ栽培を行う。(無病ほ場から採苗する)

密植はせず、適正な栽植密度とする。

換気を図り、排水を良くして多湿にならないよう注意する。

頭上灌水、多量灌水は避ける。

3) いずれの病害虫についても、同一系統薬剤の連用は避け、異なる系統の薬剤のローテーション散布に努める。

4) 防除薬剤等その他の詳細については、病害虫防除・肥料検査センター、総合農試生物環境部、農業改良普及センター等関係機関に照会する。また、農薬使用基準を遵守し、危被害防止に努める。

##### 《連絡先》

病害虫防除・肥料検査センター 米良

TEL. : 0985-73-6670 FAX. : 0985-73-7499

ホームページ : <http://www.jpnp.ne.jp/miyazaki>

E-mail : [byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp](mailto:byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp)